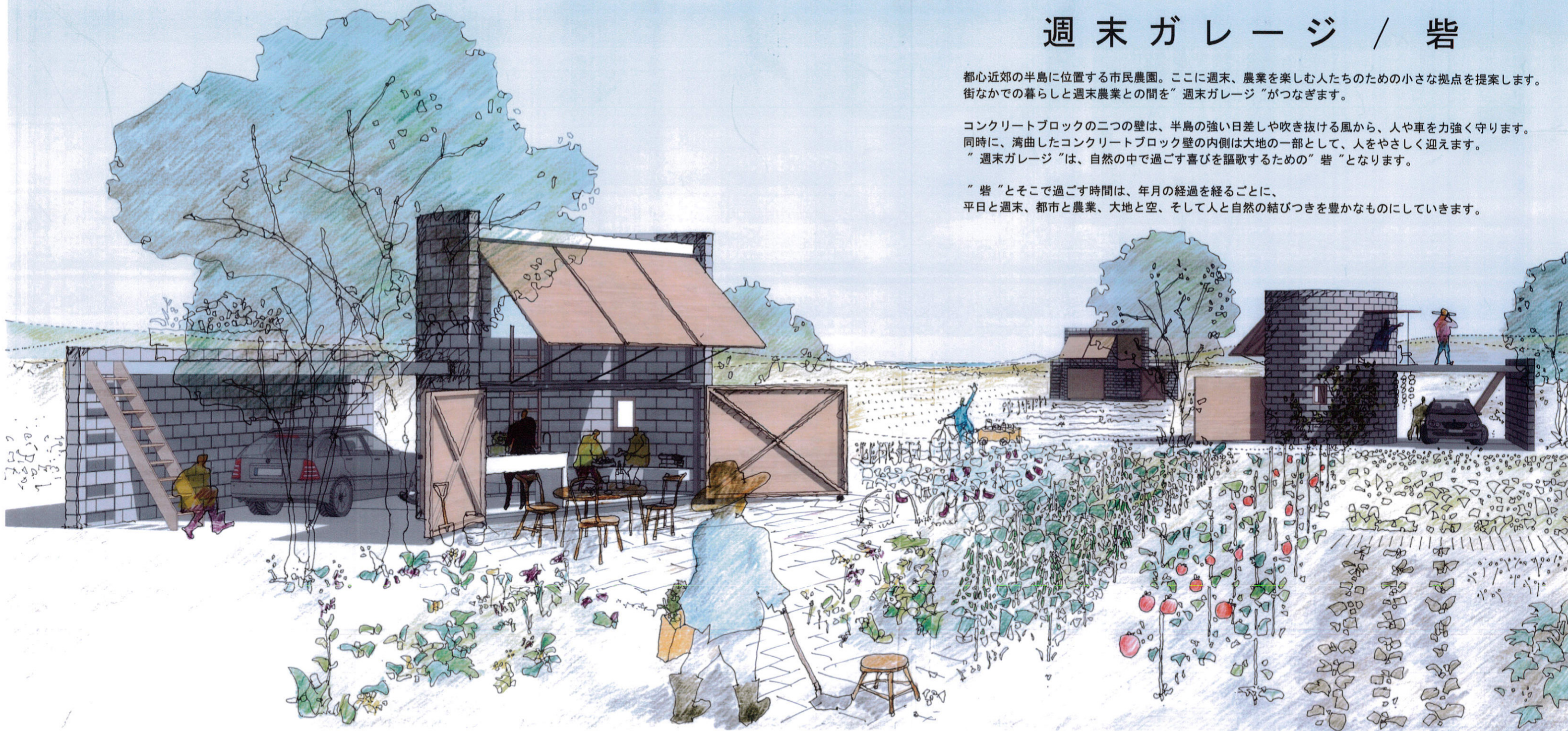


週末ガレージ / 砦

都心近郊の半島に位置する市民農園。ここに週末、農業を楽しむ人たちのための小さな拠点を提案します。街なかでの暮らしと週末農業との間を“週末ガレージ”がつなぎます。

コンクリートブロックの二つの壁は、半島の強い日差しや吹き抜ける風から、人や車を力強く守ります。同時に、湾曲したコンクリートブロック壁の内側は大地の一部として、人をやさしく迎えます。“週末ガレージ”は、自然の中で過ごす喜びを謳歌するための“砦”となります。

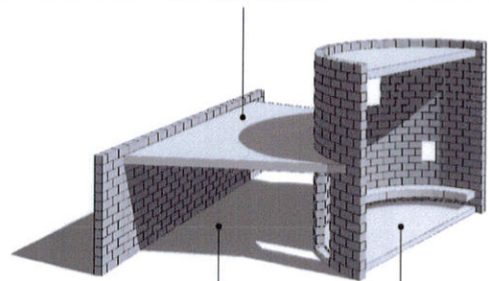
“砦”とそこで過ごす時間は、年月の経過を経るごとに、平日と週末、都市と農業、大地と空、そして人と自然の結びつきを豊かなものにしていきます。



I 直線のコンクリートブロック壁と湾曲したコンクリートブロック壁をRCのスラブでつなぐ

構造：鉄筋コンクリート組積造

スペース③：見晴台



スペース①：ガレージ

スペース②：作業場

構造構成図

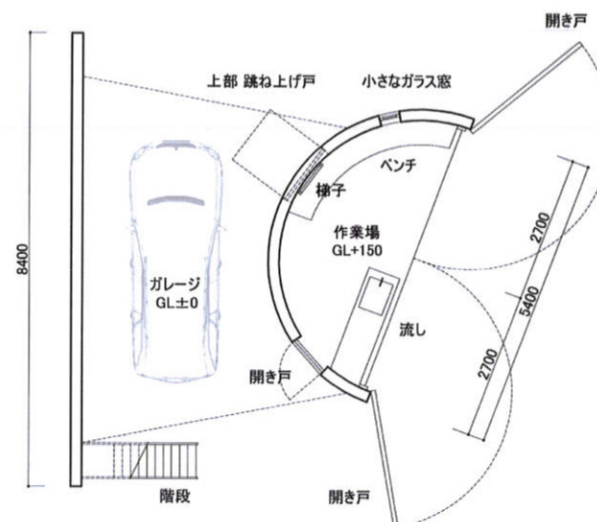
II 二つのコンクリートブロック壁とRCスラブによって、三つのスペースが生まれる
これらを ガレージ / 作業場 / 見晴台 として使う

■ スペース①：ガレージ
車一台をゆったりと停めることができる屋根付きのスペース。

■ スペース②：作業場
・湾曲したコンクリートブロック壁の内側に生み出されたスペース。
・畑作業のための道具をしまったり、作業の合間に休憩をしたり、食事をとったり、時には泊まることもできる。
・小さな流しとベンチが作りつけられている。
・収穫した野菜をさっと洗ったり、切ったり、調理ができる。
・ベンチ上の小さなガラス窓は、風の強い日や雨の日には、唯一光が入る窓になる。
・開き戸や跳ね上げ戸を大きく開けると、外の畑や空と一体となる。

■ スペース③：見晴台
ガレージの屋根の上、周りを見渡せる、大地と空に溶け込む見晴台。

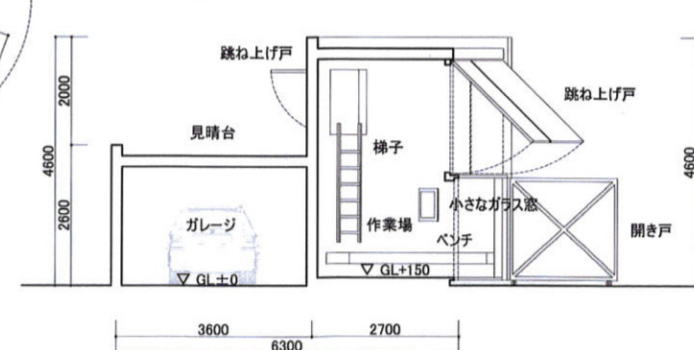
III これを“週末ガレージ”と名付ける



平面図 1/100

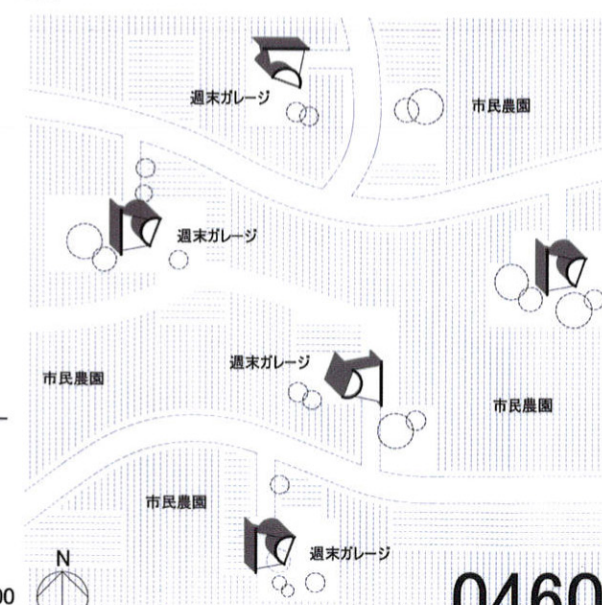
作業場から梯子を上げて跳ね上げ戸をまたぐと見晴台に、見晴台から階段を下りるとガレージに、ガレージから開き戸をくぐると作業場へ、

ぐるっと回れる“砦”になる



断面図 1/100

IV 市民農園の中に点在する週末ガレージ



配置図 1/1000